

ホシハジロ（カモ科） 全長 45 センチ

大仙市内の大浦沼に、1羽のホシハジロ（オス）が滞在している。

ホシハジロは、11月下旬から翌年3月頃まで冬鳥として県内に広く飛来する渡り鳥である。

しかし今は8月、他の仲間は北の繁殖地を目指して飛び去ってしまい、誰も見えません。大浦沼に残った1羽のホシハジロ。どこか羽でも怪我をしているのではないかと眺めているが、大きく羽ばたきを繰り返すなど羽は怪我してないようだ。



珍しいカンムリカイツブリとご対面。

なぜ他の仲間と共に飛び立って行かず、ここに残ったのだろうか。

大浦沼には水生植物や昆虫などが豊富に生息しているので、食べ物には困らないでしょう。毎年、繁殖地と日本を何千キロも往復しなければならない習性が嫌になっただろうか。



浮き草の上がお気に入りのよう。一日の大半をここで過ごしている。



波紋の中でゆったりと。

ここにいれば食べ物には困らず、天敵もあまりいません。
いずれ、もう数か月も経てば仲間が再び訪れることでしょう。呑気なホシハジロ君です。



波紋を広げて、スイスイと近寄ってきた。



目は赤茶色。



力強く羽ばたきを繰り返した。手前の花はコウホネ。